

2017年7月10日

企業会計基準委員会 御中

株式会社ビーグリー

実務対応報告公開草案第52号についてのコメント

## 質問1

## 【コメント】

この提案に同意しない。

## 【理由】

独立した第三者評価機関より算定された公正価値評価相当の金銭を実際に支払って付与されている取引であり、明らかに報酬性はないと考える。

また、有償として公正価値相当額の金銭の実際の払込みがあるために、公益社団法人日本監査役協会が「監査役監査実施要領」(改訂版)(平成28年5月20日公表)には、「有利発行決議や報酬決議、事業報告における開示の対象とはならない」とある。

更に、付与対象者の税務も、権利行使時の給与等課税事由が生じないとしている。

従って、会社法も税法も、実務上全く問題のなく、報酬として認識しておらず、会計だけが全く異なる論理展開をしていることに、非常に違和感を感じる。有償ストックオプションは金銭の対価を伴う投資という位置付けなのに無償ストックオプション同様に報酬と考えるのは無理もあるし、ベンチャー企業等の成長企業の成長を阻害してしまう。IFRSなどでも条件を満たせば費用計上しなくてよいのに、J-GAAPだけ国際会計基準と相違してしまうと国際的にも孤立してしまうという懸念もある。以上から、有償ストックオプションの会計処理は今まで同様の処理で問題ないと考える。

## 質問5

有償新株予約権について、第17項(1)に記載のような、有償という特徴を除いてまで無償と似ているとして報酬と考えるとといったような無理な論理展開をしてまで、報酬として会計処理をしようとする理由が理解できず、上記の違和感もあり、会計が『暴走』しているように見える。より説得力のある説明を求める。

以上